

令和5年度第2回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 令和6年1月26日(金) 9時30分～10時07分

会 場 倉敷市役所本庁舎7階 701会議室

出席者

委員 植田委員(会長)、宇野委員、木村委員(監事)、田野委員、藤澤委員(監事)、松浦委員、
藪田委員

事務局 保健福祉局) 藤原局長、佐藤副参事
保健福祉推進課) 河田課長代理、白神主幹、伊達副主任、高橋副主任、渡邊主事

欠席者

委員 岡本委員(副会長)、小松原委員、諏訪委員

傍聴者 なし

議事内容(要旨)

1 開 会

委員7名の出席により、倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき、会議が成立していることを確認し、開会を宣言した。今回の会議から、中野委員の後任として、連合岡山 西部地域協議会 倉敷地域連絡会の宇野様が委員に就任したため、委嘱状の交付を行い、宇野委員が自己紹介を行った。

-規約に基づき、会議の進行を植田会長に依頼した。

2 議 事(発言者:◎会長 ○委員 ■事務局)

(1) 令和5年度事業の報告について

■ 資料に従い説明を行った。

◎ 委託事業は、しらかべ号については実施なし、ボランティア育成事業の方は体験型と間接型、2つの方法で実施されたという報告だった。

○ 1千万円の寄附は、1人または1社からか。

■ 個人の方お1人から、福祉のために役立ててほしいということでご寄附いただいた。

○ 平均したら大体年間いくらほどの寄附があるのか。

■ 年度によって差があるが、昨年度は40万円程度だった。資料10ページに年度ごとの寄附額を記載している。0円の年もあれば10万円程度の年もある。

◎ 市民の方から「福祉のために」とお申出いただくことで、基金への寄附という形になっていると思う。通常であれば原資取崩しとなる年がほとんどだが、令和5年度に関しては寄附のおかげで積立となった。

*****承認*****

(2) 令和6年度事業計画(案)について(ア 令和6年度倉敷市地域福祉基金事業計画案について)

■ 資料に従い説明を行った。

○ 地域共助型ボランティア育成事業について、今年度の参加人数が1,200人程度だが、来年度の参加予定人数を1,580人としている理由を教えてほしい。また、この事業の広報はどのようにされているか。

るかを教えてほしい。

- 参加予定人数は例年 1,580 人を見込んでいるが、今年度は実績として 1,200 人程度になった。広報は、この事業の委託先である倉敷市社会福祉協議会から、学校への案内などを積極的に行っていると聞いている。
- 倉敷市社会福祉協議会からそれぞれの学校に広報しているということか。
- 広報も含めてすべて委託先にお願いしている。
- 資料 7 ページを見ると、地域によって参加学校数にばらつきがある。倉敷は高等学校が入っているからかもしれないが、周知されている学校とそうでない学校があるのかと思った。
- 広報については、委託先に地区が偏らないよう依頼する。倉敷地区は学校全体でボランティアに取り組んでいる学校も多く、学年単位で申し込まれることも多いと聞いている。
- ◎ 今年度もボランティア活動期間である夏の時期に新型コロナウイルス感染症の拡大があり、体験型のボランティアを施設側が受け入れてくれるかという心配もあったが、予想以上に現場での受け入れもでき、参加人数が合計約 1,200 人となった。来年度も、感染の状況が落ち着けば現場での受け入れが増えると良いと思う。予定としては体験型と間接型、両方の方式でされるのか。
- 可能であれば体験型に重きを置いてやりたいとのことだったが、やはり今年度と同じように受け入れが難しいということがあれば、メッセージカードとの両立も考えているとのことだった。
- ◎ 広報についても学校との連携は非常に有効だと思う。新型コロナウイルス感染症があり少し遠のいたところもあるかもしれないため、いい意味で仕切り直してほしい。地域共助型ボランティア育成事業は、倉敷市社会福祉協議会の倉敷ボランティアセンターが学校現場と受入施設を繋ぐ仕組みになっていると思うので、引き続き直接交流をしてもらいたい。子どもたちにとって、福祉の体験という広い意味での地域福祉教育になると思っている。
- ふれあいの旅「しらかべ号」実行委員会とは、旅行会社などが実行委員会に形を変えたものか。また、これまでどこに行ってもどのようなことをしたのかなどの実績を教えてください。
- 実行委員会について、発足当時のことは分からないが、今は医療関係者の方が主となっているため、旅行会社から派生したのではないと思っている。これまで約 30 年の実績があり、ハンディのある方とそうでない方が 1 泊 2 日の宿泊研修に行っている。近年では令和元年度の宿泊研修が最後だが、令和 4 年度には、コロナ禍でも人と人とが離れないようにということで、これまでの総集編として思い出の冊子を作成された。
- ◎ 実行委員会という名前だけだと、どのような方が中心になっているかが分かりにくかったと思う。お聞きしているのは医療関係者の方や福祉関係者の方。日常生活の中で障がいのある方が宿泊するのは難しいと思うが、専門職の方とボランティアの方が一緒に行き、触れ合う機会を通して障がいに対する理解を深めるという趣旨もある。宿泊ということでコロナ禍では実施が難しかった事業だと思うので、状況を見つつ頑張っていたきたい。障がいのある方も楽しみにしていると思う。これまでは毎年実施していたので周知できていたが、5 年ぶりということもありあまり知られていない事業になりつつあるので、参加者の募集など、思い出しながら準備されるのではないと思う。物価高騰が心配されるが、これまでと同様の予算の範囲内で実施されたいとのことだった。

*****承認*****

(3) 令和 6 年度事業計画 (案) について (イ 令和 6 年度助成事業の募集計画について)

- 資料に従い説明を行った。

- ◎ この助成事業は、市民団体の自発的な地域での草の根の活動を支援する事業になっていると思う。能登の方では地震の被害が大きく、自主避難所ということで地域の皆様の手作りの避難所が多くあると聞いているが、行政の手が届きにくいところを地域の繋がりの中で努力されているのだと思う。倉敷市内においても、地域をより良くしたいという思いで集まっている少人数の団体が活動することを応援できるのがシステムとして良いと思う。

*****承認*****

3 閉 会

以上により、議事を終了

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名する。

倉敷市地域福祉基金運営委員会

会 長 植田 嘉好子

監 事 藤澤 徳久